

■ 関西大学飛鳥史学文学講座 506 回特別講演 ■

▽作家 玉岡かおる氏

「女帝の時代とその終焉—歴史から学ぶ女性天皇という未来」

▽宮内庁陵墓調査官 徳田誠志氏

「続 陵墓調査の30年—仁徳天皇陵はどこまでわかったか」

【日 時】12月9日(日) 13:00~17:00 【場 所】奈良県・明日香村中央公民館

関西大学ではこのたび、極彩色の壁画で有名な高松塚古墳の発見をきっかけとして1975年に開講した、関西大学飛鳥史学文学講座の第506回記念講演を、12月9日(日)13:00から奈良県・明日香村中央公民館にて開催します。

本件の
ポイント

- ・極彩色の壁画で有名な高松塚古墳の発見を機に、1975年に開講した歴史ある講座
- ・玉岡氏は「天平の女帝 孝謙称徳」(新潮社・刊)で描いた女性天皇から、皇位継承者数が先細りになる現代に至るまでの経緯や未来へのヒントを探る
- ・徳田氏は10月から始まった宮内庁と堺市の仁徳天皇共同調査について、これまでの調査結果などを説明。第500回記念講演(6月10日開催分)の続編として急遽開催

今回の講師には、作家の玉岡かおる氏および宮内庁陵墓調査官の徳田誠志氏を招へい。玉岡氏は「天平の女帝 孝謙称徳」(新潮社・刊)で描いた女性天皇から、皇位継承者数が先細りになる現代に至るまでの経緯や未来へのヒントを探ります。

また、徳田氏は今年10月から始まった宮内庁と堺市の仁徳天皇共同調査について、これまでの調査結果などを説明します。なお、今回の講演内容は、6月10日に開催された同講座第500回記念講演の続編となります。

つきましては、ご多忙のところ恐縮ですが、ぜひ取材のご検討をよろしくお願い申し上げます。

< 関西大学飛鳥史学文学講座 506 回記念講演の概要 >

【日 時】12月9日(日) 13:00 ~ 17:00

【場 所】明日香村中央公民館 (奈良県高市郡明日香村川原)

【プログラム】13:00~ 玉岡かおる氏 (作家) 「女帝の時代とその終焉—歴史から学ぶ女性天皇という未来」
15:00~ 徳田誠志氏 (宮内庁陵墓調査官)

「続 仁徳天皇陵はどこまでわかったか—第1 塚の調査について」

【参加費】同講座のみを受講する場合:1,000円 (詳細は別紙ご参照)

【定 員】200名

【受講申込にかかる問合せ先】 関西大学教育後援会 飛鳥史学文学講座係 TEL:06-6368-0055

【主 催】関西大学飛鳥文学研究所、明日香村教育委員会

以 上

※取材をご希望の方は、お手数ですが下記お問い合わせ先までご連絡をお願いいたします。

取材に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課 担当:寺崎、浦田

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp

■ 2018年度（第44回）飛鳥史学文学講座—やまと・あすか・まほろば塾—の概要

【目的・趣旨】

1972年、故網干善教名誉教授（当時、助教授）率いる本学の考古学陣が、日本初となる高松塚古墳の壁画を発見した。本講座は、この未曾有の大発見を契機に、関西大学の研究成果を広く社会に還元することを目的とした、本学飛鳥文化研究所と明日香村による共催企画。

開講から34年目にあたる2008年度に受講者が延べ9万人を突破し、さらなる内容の充実を図るため「やまと・あすか・まほろば塾」の副題を設けた。その後も多彩なテーマを掲げて講座を展開し、41年目にあたる2015年度には受講者数が延べ10万人を突破。長年好評を博している本講座は、今年度で開講44年目を迎え、12月9日実施の講座で通算回数506回に達する。

【会 期】 2018年4月8日（日）～2019年3月10日（日）毎月第2日曜（全12回）
 時間はいずれも13：00～15：00 ※8月のみ第1日曜に開催

【場 所】 明日香村中央公民館
 （奈良県高市郡明日香村川原 TEL：0744-54-3636 近鉄「岡寺」駅下車 徒歩約25分）

【スケジュール】

回	日 程	講 師・テーマ
1	2018年 4月8日	関西大学文学部教授・博物館長 米田 文孝 「飛鳥と地方の往来・情報戦略—原東山道から七道駅路への発展—」
2	5月13日	上冷泉家第25代当主 京都美術工芸大学学長 冷泉 為人 「冷泉家の歴史と文化—和歌の家 日本人の心をめぐって—」
3	6月10日	宮内庁書陵部陵墓課 陵墓調査官 徳田 誠志 「陵墓調査の30年—仁徳天皇陵はどこまでわかったか—」
4	7月8日	明日香村教育委員会 調整員 関西大学非常勤講師 西光 慎治 「飛鳥時代の喪葬理念—「棺台」の出現とその意義—」
特別回	8月5日	明日香村村長 森川 裕一 「古代飛鳥の国づくり第3考—皇極・斉明帝のなぞ／譲位そして重祚—」
5	9月9日	関西大学文学部長・教授 藤田 高夫 「邪馬台国童子問—邪馬台国論争の論点は何か—」
6	10月14日	関西大学文学部教授 西本 昌弘 「中大兄皇子の嶋宮（岡宮）と岡寺」
7	11月11日	関西大学文学部准教授 井上 主税 「古墳に副葬された玉類の様相—3～6世紀の大和地域を中心に—」
8	12月9日	作家 玉岡 かおる 「女帝の時代とその終焉—歴史から学ぶ女性天皇という未来—」 ※加えて、宮内庁陵墓調査官の徳田誠志氏による続編講演も急遽開催
9	2019年 1月13日	関西大学文学部教授 村田 右富実 「万葉集が見た舒明朝—文学があらわす歴史—」
特別回	2月10日	学校法人関西大学専務理事 関西大学名誉教授 矢野 秀利 「古代日本の租税制度をさぐる—6,7世紀の税制史の一側面—」
10	3月10日	関西大学文学部教授 乾 善彦 「近年の新出資料と仮名の成立—飛鳥苑池遺跡・平城宮・平安京—」

【受講対象者】 飛鳥時代をはじめとする歴史や文化に興味関心をお持ちの全ての方

【定 員】 200名（年間受講料5,000円、1講座のみ受講は1,000円）
 ※年度途中からの受付も行っています。

【過去3年間の延べ受講者数】 2017年度：1,371名、2016年度：1,301名、2015年度：1,246名

以 上